フリースクールにおける『学び合い』の導入による生徒の人間関係や学習意欲の向上

○仲本　卓史（上越教育大学教職大学院）
西川　　純（上越教育大学教職大学院）
(j285632j@myjuen.jp)

要約

本研究は，人間関係に様々な問題を抱えたフリースクールの生徒が，『学び合い』の導入により，会話や行動，学び方がどのように変容するのかを明らかにすることである。『学び合い』の導入により，生徒の会話や行動，学び方に変容が見られ，人間関係や学習へ取り組む意欲の向上が見られた。

キーワード：『学び合い』，フリースクール，

Ⅰ　問題の所在

平成 27 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題」に関する調査[1]によると，中学校における不登校生徒の割合は平成 10 年度から 2 %台が続いており，ほぼ横這い状態にある。また，同調査によれば「指導の結果登校するまたはできるようになった生徒の割合」は公立中学校で 28.4 %であり，不登校の解消は簡単なことではないことがうかがえる。

西川（2011）は，「クラスの人間関係が良くなると不登校は解消する」と述べ，『学び合い』による不登校生徒への対応を提案している[2]。『学び合い』は，教科指導を通して徹底した「みんな」意識を持つ集団に育てようとする考え方である。『学び合い』では，教師は集団の管理者であり，不登校生徒にはたらきかけるのは，「みんな」意識を持った集団となる。

『学び合い』による人間関係の向上は，桐生（2003）が明らかにしている[3]。桐生は，中学 1 年生と 2 年生の異学年学習形態で総合的な学習の時間を仕組み，授業中の生徒の様子を分析している。その結果，生徒は「じゃれあい」を表出しながら活動を中断することなく，むしろ人間関係を高め合いながら学習を成立させていることを明らかにした。また，「じゃれあい」の出現には 3 段階あり，グループ結成初期の課題に関する会話だけでじゃれあいのない状態（第 1 段階）から，次第に親しい人とじゃれあいながらも，自然に課題に戻る状態（第 2 段階）になり，さらに，班員全員とじゃれあいながらも自然に課題に戻っていく状態（第 3 段階）に変容することも明らかにした。

さらに，岡沢（2015）は，『学び合い』授業により，不登校児童とその他の児童とは，学習課題の解決を通して人間関係を高め合っていることを明らかにしている[4]。

しかし『学び合い』の授業をフリースクールに導入し，不登校生徒同士が学習課題の解決を通して，それぞれの人間関係や学習意欲の向上を明らかにした研究は見当たらない。

Ⅱ　研究目的

本研究の目的は、フリースクールにおける『学び合い』の授業の導入により，不登校生徒それぞれの人間関係と学習意欲の変容を明らかにすることである。

Ⅲ　研究方法

1　調査対象

A 県フリースクール

職員数：4 名

生徒数：8 名（中 1 女子 1 名，中 2 男子 4 名女子 1 名，中 3 女子 2 名）

2　調査期間

平成 28 年 10 月～ 12 月

期間中の 10 回の授業を記録した。

3　学習活動の手続き

授業は，全員が一つの教室に集まり，学年ごとに提示される学習課題を全員が達成することを目指して取り組む。問題解決の手段は生徒の主体的な判断に任せるが，『学び合い』では「最

大の支援ツールは人」と考えることから，他者とかかわって学び会うことを奨励する。かかわる相手は生徒の判断により，教師によるグルーピングは行わない。各学年の学習課題は教科書の進度通りである。そのため，先の学習内容の見通しを持つことができ，全員の課題達成に向けて予習してくる生徒もいる。

『学び合い』では，教科の学習課題を学習者の「みんな」が達成することが真の課題である。そのために教師は生徒が主体的に行動することを求め，「みんな」が課題を達成したか，「みんな」の課題達成に向けて生徒一人一人が持っている力を十分に発揮して行動したかを評価する。

当該フリースクールでは，調査期間中，理科（全員），数学（二年男子１女子 1，一年女子１）の，それぞれ週二時間の授業で『学び合い』を行った。調査初期には学年にこだわって学習を展開する様子が見られたが，次第に学年にこだわらず，誰とでも関わって学習活動を展開する姿が見られるようになった。

4　調査内容

・生徒全員につけた IC レコーダーによる発話，会話の記録

授業時間の中での記録をとる。会話の内容については，岡沢ら（2015）[5]に準拠し，表 1 に示す 3 つのケースに分類した。それらの事例を事例 1 ～ 3 に示す。

・ビデオカメラでの授業の記録

授業時に教室の前方後方に 1 台ずつビデオカメラを設置し、記録する。

・生徒と教師にインタビューとアンケートを実施する。

表1　会話の内容による分類

課題の会話	学習課題の解決を目的とした会話
じゃれあい	学習課題に関係のない会話
課題とじゃれあいの会話	課題に関する話題とじゃれあいとが混在した会話

事例1　課題の会話

SW：これ　なんで仕事０（ゼロ）なの？
RM：みかんは水平に動かしていて，垂直方向に動いてないからじゃない？
SW：う～～～ん

上記のような，学習課題の解決を目的とした会話を「課題の会話」とした。

事例2　じゃれあい

SW：ハローワーク（アナ雪のパロディの動画）見たいね。
RM：〇〇先生，これ見ても全然笑わないよ。
SW：笑いのツボが，（私達と）違うよね。

上記のような，学習課題に関係のない会話を「じゃれあい」とした。

事例3　課題とじゃれあいの会話

YT：修学旅行で何食べる？
OE：抹茶パフェが良いんじゃない？
YT：ちょー楽しみだね。
OE：で，ここ教えて？
YT：これオームの法則のあの式使えば良いよ。

上記のような，課題に関する話題とじゃれあいとが混在した会話を「課題とじゃれあいの会話」とした。

5　分析方法

・IC レコーダーから、授業の場面で，どのような会話が行われているかプロトコル分析を行う。

・動画を基に生徒同士の関わり合いについての検討を行う。

・生徒や教職員，生徒の保護者のインタビューの発話内容を質的に分析する。

Ⅳ　結果・考察

『学び合い』の授業をフリースクールに導入することにより，生徒の会話や行動，学び方に変容が見られ，人間関係や学習へ取り組む意欲の向上が見られた。

※詳細については当日発表する。

Ⅴ　引用・参考文献

1）文部科学省：「平成 27 年度『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題』に関する調査」，2015.

2）西川純：「『学び合い』スタートブック」，学陽書房，2010.

3）桐生　徹・西川純：「異年齢学習形態における学びの成立に関する研究」，臨床教科教育学会誌（1），No1，pp46-57，2003

4）岡沢裕治・西川純：「『学び合い』授業中の不登校児童と他の児童との会話に関する事例的研究」，上越教育大学教職大学院研究紀要 第 3 巻，2015

5）前掲 4)